

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770200362		
法人名	社会福祉法人博安会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	香川県丸亀市垂水町1353番地		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町受理日	平成22年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770200362&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770200362&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年11月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々に支えられ、年間を通して行事が充実しているため楽しみが多い。複合施設のメリットとして、他の部署での行事やイベント等にも気軽に参加でき、多くの人との交流がある。また、参加するだけでなく大きな行事は共同で行い、グループホーム単独のイベントにも参加してもらっている。その際にも地域の方々やボランティアに協力してもらえ体制づくりができています。その方々も、常に同じメンバーなので入居者とも馴染みの関係が保たれ、混乱を招くことなく参加できている。</li> <li>・職員の研修の機会を多く設け、ケアの質の向上に努めている。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>当ホームは郊外の住宅街にある。近くにお寺や神社があり、散歩時には近隣の人々と交流している。食堂兼居間は、随所にソファが置かれて落ち着いた雰囲気である。ボランティアの訪問や夏祭りなどの行事には、参加者が年ごとに増えて、馴染みの関係ができています。防災対策に力を入れ、備蓄用品の整備や起震車による防災訓練を、地域の消防団や住民の参加で実施し、協力体制を推進している。地産地消応援企業に認定され、「細やかな気配りとやさしさの行き届いた介護」を基本理念に、複合施設の利便性を活かし、事業主や職員が一体となって、地域に密着した支援に取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

グループホームなごみ(グループホームなごみ)

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「細やかな気配りと、やさしさのゆき届いた介護をモットーとします」「地域に密着した生涯にわたるお付き合いを基本とし」を理念とし、見える場所に掲示し朝礼時に復唱している。	法人の理念のもと、グループホーム独自の目標を作成し「できることはしてもらい、できないことはおてつだいする」をモットーに、管理者が率先し全職員が認識して、地域に密着した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所や小学校と交流事業を行ったり、地域のお祭りに参加している。また、地域の方が定期的に大正琴の演奏に来てくれたり、行事にボランティアで参加してくれている。園で開催される夏祭りは、地域の方の参加が年々増えている。	散歩時やボランティアの訪問・行事・災害時の訓練などで交流の機会も多く、近隣の方との馴染みの関係が年ごとに増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	依頼により、地域の方の研修会で講師を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際や評価の取り組みなどについて話し合いを行い、そこでの意見は全職員に周知して、どのようにしていくか改善策を話し合っている。また、次回の運営推進会議時に取り組みを報告している。	入居者の状況や事業の経過報告、改善策を話し合っている。備蓄用の食料の試食をしたり、防災訓練の実施について積極的な意見交換をして、支援活動に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその他行事の開催案内状は、入居者と共に持参するようになっている。また、市主催のグループホーム連絡会には、必ず出席するようになっている。	グループホームの連絡会に参加し、情報交換をしている。運営推進会議や夏祭りの行事の案内状を、入居者と一緒に入れて、協力関係が継続するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修により、職員はその弊害を理解できている。拘束が必要な場合においては、同意書をいただき、拘束期間中は、記録を残し、最低限の拘束に努めている。	マニュアルを作成して定期的に研修会を開き、身体拘束や言葉による拘束をしないケアの実践に向けて、全職員が共有して支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を実施し、そのことを各自が念頭に置き、業務に取り組んでいる。		

グループホームなごみ(グループホームなごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があるが、現在、この制度を利用している人はいない。必要があれば、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、2名以上の担当職員が同席し、納得されるまで話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をすると共に、日頃から家族が意見や要望を言いやすいような環境づくりに努めている。	家族の面会時や利用者の日常の会話から意見や要望を聞いて、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な意見交換の機会があり、その意見に耳を傾け、反映させてくれている。	職員と代表者の個人面談が定期的にあるが、日常的に職員が自由に意見交換ができる関係にあり、活動に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等の実施により、職員の意見をよく熟知し、やりがいのある職場環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に力を入れており、職員が可能な限り、施設外の研修に参加できるように努めている。また、施設内の研修も充実した内容である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、その研修等には積極的に参加し、参加者と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、担当者が本人を訪問して、納得できるように話し合う機会をつくり、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでに、担当者が家族を訪問したり、事業所で会い、十分に納得ができるように話し合う機会をつくり、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、同法人の支援センター職員等と共に受けるようにしており、その都度、必要な最善のサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「常に共に行う」を念頭に置き、一人ひとりにあった支援に努めている。その方に合った役割が自然にでき、入居者同士での配慮や助け合いの精神も芽生え、共同生活の中の支え合いがみられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も報告・連絡・相談できる関係を築くように努めている。面会時や電話等で、支援方法を家族と共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人が訪れやすい環境づくりに努めている。馴染みの美容院を利用したり、行事の案内を届けたりして、馴染みの関係を維持している。	ボランティアや近隣の人達や同一法人の利用者などと交流する機会をつくり、馴染みの関係が継続するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を見極め、みんなで調和できるように職員が配慮した声かけをし、入居者同士の橋渡しができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先等を訪問したり、家族に会った際には様子を聞いたりし、つながりが持てるように努めている。退居の際には、次の受け入れ先に、十分な情報を伝え、ケアの継続性が保てるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの意思を大切にし、本人の様子や生活、今までの暮らしの情報や趣味などを把握し、その人らしく生活できるように努めている。	本人の日常の言動から、思いや意向を把握するように努めている。個々に担当者を決めて、細やかな配慮と支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで利用していた事業所から情報を得たり、入居時に十分に情報が得られるような書類を記入していただいている。また、本人や家族から常に話を聞き、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で一人ひとりの生活状況を共有し、その中で共に行い、持っている力が十分に発揮できる場面づくりに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を中心とし、本人を支えるチームの一員であると認識し、計画を立てる際には、意見を交換・共有し作成している。	個別の介護日誌に、短期目標を明記し、職員は共有して日々の支援に取り組んでいる。評価を簡潔に記入するように工夫されており、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰もが、ケアプランを見ることができるようになっており、それに沿った記録を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人所有の車を活用したり、特別養護老人ホーム・デイサービスで行われる様々な行事に参加し、柔軟な支援を行っている。		

グループホームなごみ(グループホームなごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の高齢者支援課や、警察署・消防署などと常に連絡の取れる体制にある。また、ボランティア交流、保育所・小学校など、近隣の方との交流を通し、安心して暮らせる体制づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関との連携により、必要に応じて受診できている。本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医となっており、家族の支援を得ながら受診を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を家族の協力で支援している。定期的な往診や歯科や精神科など医療機関と連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日頃から相談を密に行っている。近隣の医療機関との連携により、相談はいつでも可能な体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、介護添書を提供し、定期的に訪問し、本人の様子をうかがうと共に、病院関係者とも連絡を密に取り、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族やかかりつけ医を含めて、各担当者と共に今後の方針を話し合っており、状態に応じた対応がスムーズに行えている。	入居時に本人や家族と十分に話し合っているが、状態によって早い段階から医療機関と連携して話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、1年に1回は見直しを実施している。施設内研修で、消防署員より、AEDを使用しての心肺蘇生法を学んでいる。看護師から、急変時の対応や応急処置の講習を定期的を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設置し、定期的に訓練も実施している。地域の方を招いての起震車体験も予定している。災害の発生時に備えて、アルファ化米や飲料水、毛布などを常備している。	防災避難用品を整備し、定期的に避難訓練を実施している。地域住民や消防団の参加で起震車体験や屋外でアルファ化米を炊飯するなど、地域と協力して災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには、日頃から気をつけており、一人ひとりの個々に合わせた言葉かけに配慮しながら対応している。	個人情報の取り扱いや守秘義務の徹底に努めている。プライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を出したり、なるべく多くの意見を聞きだしたりして、自分で答えを出せるように導き、自己決定の大切さを認識したうえで支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペースや希望に合った支援ができるように、その日の勤務者が相談を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望される方は、地域の美容室にて行っている。毎朝、洗顔やブラッシング、入浴時には、自分でその日に着たい服を選んでもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。食べたいメニューを取り入れたり、嫌いなものは別の物に変えたりして、食事が楽しめるように配慮している。	主食と汁物はユニットごとに作り、他は本部で調理している。月に数回、利用者と相談してメニューを作り、買い物や調理を利用者と職員が一緒にして、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い、必要量を確保できない場合は、個々に対応策を講じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、歯磨きを実施し、夕食後には、入れ歯を外して洗浄液に漬けて、清潔の保持に努めている。自分でできる方には、言葉かけや誘導を行い、できない方には、介助を行っている。		

グループホームなごみ(グループホームなごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄介助を行っている。また、安易におむつに頼らずに、安心パンツを活用し、排泄の自立に取り組んでいる。	排泄パターンの把握と、安心パンツの導入でトイレでの排泄と自立に取り組み、成果を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維を多く摂ったり、適度な運動や腹部マッサージを行ったりして、自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、週3回となっているが、その時の状態や本人の希望に応じて柔軟な対応を行っている。	脱衣場や浴室は、安全に配慮した、ゆとりある設計である。基本的には週3回となっているが本人の体調や要望により柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも個々の生活リズムに応じて、休息できるように声かけを実施している。就寝時間は決めず、一人ひとりに合わせた対応を行っている。また、夜間に十分な睡眠が取れるように、日中の活動量を増やすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をケース記録につけたり、薬箱に薬の名前を記したりして、飲み忘れや誤薬がないように気をつけている。また、状態に変化がある場合には、担当医にすぐに連絡する体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・園芸・食事作り・習字など、一人ひとりの得意分野を見つけだし、楽しんで役割をしてもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などの日常の外出以外に、季節ごとのお花の観賞や遠足などは、家族や地域の人々の協力を得て、出かけている。	日常の散歩や買い物など、外出する機会をつくるように努めている。個人的に外出を希望される時は、家族と協力して出かけられるように努めている。	



グループホームなごみ(グループホームなごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方に対しては、できる限りお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己管理の携帯電話で家族と話しをしたり、自作の絵手紙や年賀状を家族に出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁画にも季節感を出し、くつろげる環境となっている。夏には、緑のカーテンを育てている。	居間兼食堂は天窗から自然光が入り、随所にソファが置いてあり、落ち着いた雰囲気である。対面式の台所と隣接しており、家庭のような趣きで、居間はここで過ごされることが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・畳の間・談話コーナーなど、個々に思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を、できる限り持ち込んでもらえるようお願いし、以前の生活環境を変えないように家族に協力してもらっている。	居室の入口は手作りの表札を掲げている。馴染みの家具を持ち込んだり、畳を利用されている方もおり、それぞれに居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりつきバリアフリー住宅で、安全に設計されている。トイレや居室は、目印をつけてわかりやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「細やかな気配りと、やさしさのゆき届いた介護をモットーとします」「地域に密着した生涯にわたるお付き合いを基本とし」を理念とし、見える場所に掲示し朝礼時に復唱している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所や小学校と交流事業を行っている。また、地域の方が定期的には大正琴の演奏に来てくれたり、行事にボランティアで参加している。園で開催される夏祭りは、地域の方の参加が年々増えてきている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	依頼により、地域の方の研修会で講師を行っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際や評価の取り組みなどについて話し合いを行い、そこでの意見は全職員に周知して、どのようにしていくか改善策を話し合っている。また、次回の運営推進会議時に取り組みを報告している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその他行事の開催案内状は、入居者と共に持参するようにしている。また、市主催のグループホーム連絡会には、必ず出席するようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修により、職員はその弊害を理解できている。拘束が必要な場合においては、同意書をいただき、拘束期間中は、記録を残し、最低限の拘束に努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を実施し、そのことを各自が念頭に置き、業務に取り組んでいる。

グループホームなごみ(グループホームたるみ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会があるが、現在、この制度を利用している人はいない。必要があれば、活用できるように支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、2名以上の担当職員が同席し、納得されるまで話し合いを行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をすると共に、日頃から家族が意見や要望を言いやすいような環境づくりに努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な意見交換の機会があり、その意見に耳を傾け、反映させてくれている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等の実施により、職員の意見をよく熟知し、やりがいのある職場環境づくりを目指している。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成に力を入れており、職員が可能な限り、施設外の研修に参加できるように努めている。また、施設内の研修も充実した内容である。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、その研修等には積極的に参加し、参加者と交流を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、担当者が本人を訪問して、納得できるように話し合う機会をつくり、信頼関係を築けるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでに、担当者が家族を訪問したり、事業所で会い、十分に納得ができるように話し合う機会をつくり、信頼関係を築けるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、同法人の支援センター職員等と共に受けるようにしており、その都度、必要な最善のサービスを提供するように努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「常に共に行う」を念頭に置き、一人ひとりにあった支援に努めている。その方に合った役割が自然にでき、入居者同士での配慮や助け合いの精神も芽生え、共同生活の中の支え合いがみられている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も報告・連絡・相談できる関係を築くように努めている。面会時や電話等で、支援方法を家族と共に考えている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人が訪れやすい環境づくりに努めている。馴染みの美容院を利用したり、行事の案内を届けたりして、馴染みの関係を維持している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を見極め、みんなで調和できるように職員が配慮した声かけをし、入居者同士の橋渡しができるようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先等を訪問したり、家族に会った際には様子を聞いたりし、つながりが持てるように努めている。退居の際には、次の受け入れ先に、十分な情報を伝え、ケアの継続性が保てるようにしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの意思を大切にし、本人の様子や生活、今までの暮らしの情報や趣味などを把握し、その人らしく生活できるように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで利用していた事業所から情報を得たり、入居時に十分に情報が得られるような書類を記入していただいている。また、本人や家族から常に話を聞き、生活環境の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で一人ひとりの生活状況を共有し、その中で共に行い、持っている力が十分に発揮できる場面づくりに努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を中心とし、本人を支えるチームの一員であると認識し、計画を立てる際には、意見を交換・共有し作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰もが、ケアプランを見ることができるようになっており、それに沿った記録を行うようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人所有の車を活用したり、特別養護老人ホーム・デイサービスで行われる様々な行事に参加し、柔軟な支援を行っている。

グループホームなごみ(グループホームたるみ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の高齢者支援課や、警察署・消防署などと常に連絡の取れる体制にある。また、ボランティア交流、保育所・小学校など、近隣の方との交流を通し、安心して暮らせる体制づくりに努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関との連携により、必要に応じて受診できている。本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医となっており、家族の支援を得ながら受診を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日頃から相談を密に行っている。近隣の医療機関との連携により、相談はいつでも可能な体制が整っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、介護添書を提供し、定期的に訪問し、本人の様子をうかがうと共に、病院関係者とも連絡を密に取り、情報交換を行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族やかかりつけ医を含めて、各担当者と共に今後の方針を話し合っており、状態に応じた対応がスムーズに行えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、1年に1回は見直しを実施している。施設内研修で、消防署員より、AEDを使用しての心肺蘇生法を学んでいる。看護師から、急変時の対応や応急処置の講習を定期的を受けている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設置し、定期的に訓練も実施している。地域の方を招いての起震車体験も予定している。災害の発生時に備えて、アルファ化米や飲料水、毛布などを常備している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いには、日頃から気をつけており、一人ひとりの個々に合わせた言葉かけに配慮しながら対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を出したり、なるべく多くの意見を聞きだしたりして、自分で答えを出せるように導き、自己決定の大切さを認識したうえで支援に努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペースや希望に合った支援ができるように、その日の勤務者が相談を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを希望される方は、地域の美容室にて行っている。毎朝、洗顔やブラッシング、入浴時には、自分でその日に着たい服を選んでもらうようにしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。食べたいメニューを取り入れたり、嫌いなものは別の物に変えたりして、食事が楽しめるように配慮している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い、必要量を確保できない場合は、個々に対応策を講じている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、歯磨きを実施し、夕食後には、入れ歯を外して洗浄液に漬けて、清潔の保持に努めている。自分でできる方には、言葉かけや誘導を行い、できない方には、介助を行っている。



グループホームなごみ(グループホームたるみ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄介助を行っている。また、安易におむつに頼らずに、安心パンツを活用し、排泄の自立に取り組んでいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維を多く摂ったり、適度な運動や腹部マッサージを行ったりして、自然排便を促すようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、週3回となっているが、その時の状態や本人の希望に応じて柔軟な対応を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも個々の生活リズムに応じて、休息できるように声かけを実施している。就寝時間は決めず、一人ひとりに合わせた対応を行っている。また、夜間に十分な睡眠が取れるように、日中の活動量を増やすようにしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をケース記録につけたり、薬箱に薬の名前を記したりして、飲み忘れや誤薬がないように気をつけている。また、状態に変化がある場合には、担当医にすぐに連絡する体制ができている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・園芸・食事作り・習字など、一人ひとりの得意分野を見つけだし、楽しんで役割をもらえるように支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などの日常の外出以外に、季節ごとのお花の観賞や遠足などは、家族や地域の人々の協力を得て、出かけている。

グループホームなごみ(グループホームたるみ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方に対しては、できる限りお金を使えるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己管理の携帯電話で家族と話しをしたり、自作の絵手紙や年賀状を家族に出したりしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁画にも季節感を出し、くつろげる環境となっている。夏には、緑のカーテンを育てている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・畳の間・談話コーナーなど、個々に思い思いに過ごせるようになっている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を、できる限り持ち込んでもらえるようお願いし、以前の生活環境を変えないように家族に協力してもらっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりつきバリアフリー住宅で、安全に設計されている。トイレや居室は、目印をつけてわかりやすくしている。